

在宅療養中の
ALS当事者避難訓練
について

熊本市保健所 医療政策課



避難行動支援に関する制度の流れ

災害対策基本法の一部改正

1. 避難行動要支援者名簿の作成の義務化（平成25年）

災害時に自ら避難することが困難な高齢者や障害者等の避難行動要支援者について、避難行動要支援者名簿を作成することが市町村の義務とされた。

2. 個別避難計画の作成の努力義務化（令和3年5月施行）

避難行動要支援者の円滑かつ迅速な避難を図る観点から、個別避難計画について、市町村に作成を努力義務化

避難行動支援に関する制度の流れ

熊本市防災基本条例（令和4年10月1日施行）

条例制定の主な目的

- 1 防災における自助、共助、公助の役割を明確にし、地域防災力を強化する方針を示すこと。
 - 2 熊本地震の記憶と記録、教訓の後世への伝承に関する方針を示すこと。
- ⇒ 市民、事業者、地域、市が防災に関する基本的な考え方を共有することにより防災意識の醸成を図り、協働で防災に取り組むことで、市民が安心して暮らせる、真に災害に強いまちを実現するための指針とするため、本条例を制定しました。



第2章 自助、共助及び公助

（市民の役割） （事業者の役割）
（市の役割） （避難所の運営等）
（避難行動要支援者への支援）

（地域の防災組織の役割）
（帰宅困難者に係る対策）
が明記されました。

避難行動支援に関する制度の流れ

熊本市防災基本条例（令和4年10月1日施行）

第2章 自助、共助及び公助 （避難行動要支援者への支援）

3 市は・・・・・・・・
避難行動要支援者等と
避難支援等に関わる**地域団体、
医療又は福祉に関する団体
その他関係機関との連携**が
深まるよう努めなければ
ならない。

（避難行動要支援者への支援）

- 第10条 市は、避難行動要支援者の生命又は身体を災害から保護するために必要な措置（以下「避難支援等」という。）が円滑に行われるための仕組みを構築しなければならない。
- 2 市は、避難支援等を行うために必要な情報の収集及び整理をするとともに、これを避難支援等に関わる地域団体（町内自治会その他の地域活動を行う団体をいう。以下同じ。）その他関係機関と共有するよう努めなければならない。
- 3 市は、避難行動要支援者及びその家族等（以下「避難行動要支援者等」という。）が避難支援等の取組に対する理解を深めることができるようにするとともに、避難行動要支援者等と避難支援等に関わる地域団体、医療又は福祉に関する団体その他関係機関との連携が深まるよう努めなければならない。
- 4 避難支援等に関わる地域団体その他関係機関は、平時から地域活動等を通じて、避難行動要支援者の避難を支援するために必要な情報を収集し、その支援につながるよう努めるものとする。

- ① 高齢者（独居、老々世帯、寝たきり、認知症）
- ② 障がいのある方
- ③ 妊産婦
- ④ 乳幼児
- ⑤ 医療依存度の高い方
（人工呼吸器装着者（児）、在宅酸素使用者、人工血液透析者、
特殊薬剤使用者、経管栄養使用者 等）

**※医療政策課にて個別避難支援計画の作成を担当している対象者は、
人工呼吸器装着者（児）です。**

個別避難支援プランについて

【背景】

熊本市では、平成19年10月から災害時要援護者避難支援制度を開始。その中でも、人工呼吸器装着者は、停電になると命の危険につながるため、制度開始当初から医療政策課で人工呼吸器装着者への支援（個別避難支援プラン策定）を行っている。

【目的】

人工呼吸器装着者が、災害や緊急事態等発生時に、命の危険を回避し、安心して療養生活が継続できるよう支援するため。

個別避難支援プランの主な項目

令和 年 月 日現在

個別避難支援プラン(チェックリスト)

ご本人について

フリガナ		生年月日 (年齢)	年 月 日()
氏名			
住所	〒		
緊急時連絡先1	(氏名)	[本人との関係] (TEL)	同居 別居
緊急時連絡先2	(氏名)	[本人との関係] (TEL)	同居 別居
人工呼吸器使用時間	常時 もしくは 一時的(夜間・呼吸苦時・その他())		
コミュニケーション方法			
移動手段			
移送時の注意点			

電源確保のための避難先

施設名	担当部署 担当者	TEL
-----	-------------	-----

支援関係者

	所属機関名	担当者	TEL
かかりつけ医			
訪問看護ステーション			
訪問介護事業所			
相談支援専門員			
移送支援者	[本人との関係]	[氏名]	
※停電時連絡先			

※契約している電力会社をご確認ください。

停電時に、「電気契約者氏名」、「住所」、「人工呼吸器を装着しており生命の危険がある旨」をお伝えいただくと、優先的な復旧作業を行なってもらえる場合があります。

地震等で家が被害を受けた場合、通電火災予防のためにブレーカーを切って避難しましょう。

担当課	熊本市保健所医療政策課	清原・上野	TEL	096-364-3186
			FAAX	096-371-5172

※ 内容に変更があった場合は熊本市保健所医療政策課にご連絡ください。

医療機器の確認について

人工呼吸器	機器名称	
	機器管理会社 連絡先	(担当:)
<input type="checkbox"/> 内部バッテリーの稼働時間(時間程度) <input type="checkbox"/> 外部バッテリーの有無の確認⇒なしもしくは あり(時間程度) <input type="checkbox"/> 呼吸回路セット・人工鼻(交換分)の予備 <input type="checkbox"/> 気管カニューレ・マスク(交換分)予備 <input type="checkbox"/> 精製水の備蓄 <input type="checkbox"/> パルスオキシメーターの準備 <input type="checkbox"/> アンビューバッグの準備		

吸引器	機器名称	
	機器管理会社 連絡先	(担当:)
<input type="checkbox"/> 内部バッテリーの稼働時間(時間程度) <input type="checkbox"/> 外部バッテリーの有無の確認⇒なしもしくは あり(時間程度) <input type="checkbox"/> 携帯用口持ち運ぶことができるか <input type="checkbox"/> 吸引カテテル(交換分)の予備		

在宅酸素	機器名称	
	機器管理会社 連絡先	(担当:)
<input type="checkbox"/> 酸素濃縮器使用(日中⇒ L/分、夜間⇒ L/分) <input type="checkbox"/> 携帯用酸素ボンベの備蓄		

(非常用電源について)

- 自家用車からの電源確保(シガーライターソケット、100Vコンセント)は可能か
- 自家発電機がある場合は、メンテナンスがされているか
- 蓄電池がある場合は、充電の準備がされているか

避難のための準備物(目安:3日分)定期的に確認をしましょう *自己チェックをお願いします。

食事 方法:(経口/経管/胃ろう)	日用品
<input type="checkbox"/> 栄養剤 <input type="checkbox"/> イリゲーター(交換分) <input type="checkbox"/> 栄養チューブ(交換分) <input type="checkbox"/> 飲料水 <input type="checkbox"/> 常備薬 <input type="checkbox"/> 毛用薬 <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> 電灯 <input type="checkbox"/> ラジオ <input type="checkbox"/> 電池、蓄電池 <input type="checkbox"/> 携帯電話充電器 <input type="checkbox"/> 延長コード <input type="checkbox"/>
排泄	貴重品
<input type="checkbox"/> 尿管カテテル等(交換分) <input type="checkbox"/> ストーマ用品(交換分) <input type="checkbox"/> おむつ <input type="checkbox"/> ウェットティッシュ <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> 医療保険証 <input type="checkbox"/> 特定疾患医療受給者証 <input type="checkbox"/> 障害者手帳・受給者証 <input type="checkbox"/> 印鑑 <input type="checkbox"/> お薬手帳 <input type="checkbox"/>

※ チェックリスト内容については1年に1回訪問又は電話での確認をします。

個別避難支援プラン
A3用紙

自宅へ
郵送(3枚)



本人から関係者へお渡し

個別避難支援プランの活用

平時

個別避難支援プランの更新時（1回/年）

個別避難支援プランに記載されている項目等の変更を確認

本人・関係者と避難訓練の実施

災害前

避難準備状況の確認（個別避難プラン作成者へお知らせ）

- ・ 災害対策チェックリスト、自宅付近のハザードマップを梅雨入前に送付（バッテリーの充電・避難準備物品の準備啓発）
- ・ 支援者との連携

災害
発生時

アクションカードに従って安否確認

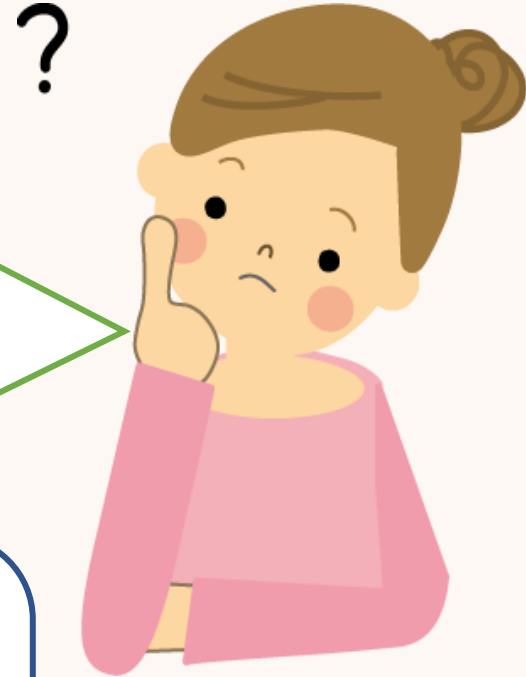
- ・ 要援護者名簿一覧（データ・ペーパー）マニュアルに沿って確認
- ・ 聞き取り内容記録・連携調整必要時の対応

災害避難訓練を実施するきっかけ



災害時要援護者避難支援制度の流れはどのようになっているのでしょうか？

個別避難支援プランの定期的な更新プラン作成以外にどんなことをしているんですか？



避難訓練を行うことはできないですか？災害の時に荷物の運び出しなどを手伝っていただけこうと思い、普段からご近所さんへお声かけはしてるんですが、具体的にどこまでのお手伝いをお願いできるのか不安があります。

人工呼吸器装着者の個別避難支援プラン作成時に聞かれた声

災害避難訓練へ向けての取組み

難病相談支援センターとの打ち合わせ

- 避難訓練当事者の選定（ご家族の協力意思の確認）
- 実施日程、実施方法等の打ち合わせ

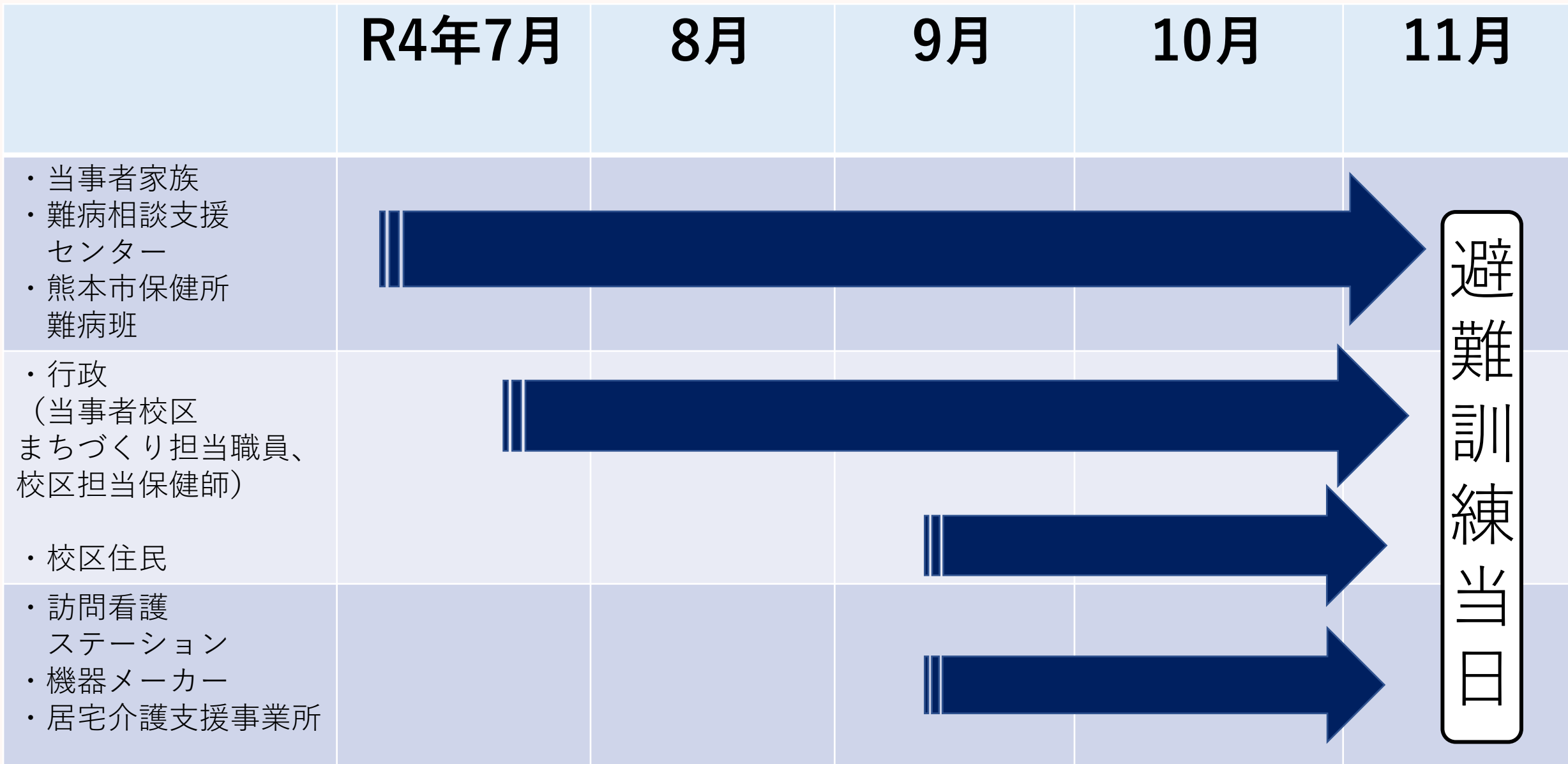
住民への啓発

- 区保健子ども課、まちづくりセンターへ、避難訓練の説明と打ち合わせを行う
- 当事者居住校区の自治会連合会長会にて、当課事業と避難訓練について説明
- 当事者居住校区の民生・児童委員協議会会議にて、当課事業と避難訓練について説明
- 当事者居住校区の防災連絡会にて、当課事業と避難訓練に関する資料配布

支援者との打ち合わせ

- 機器管理会社を訪問し担当者から当事者使用の人工呼吸器情報についての説明を受ける
- 支援を行う訪問看護ステーションを訪問し打ち合わせを行う（看護師、理学療法士）
- 支援を行う居宅介護支援事業所を訪問し打ち合わせを行う（ケアマネジャー）
- 電源確保のための避難先拡充のため、地域の病院へ訪問

災害避難訓練へ向けての取組み（経過）



避難訓練（当日）

<設定：大型台風接近による停電リスク回避のため避難入院>

【実施すること】

- ・ 関係機関・関係者の参集
- ・ ベッドから車いすへの移乗・移送支援
- ・ 人工呼吸器を非常用電源へ接続
- ・ 必要物品の準備

目的：人工呼吸器装着者が災害時に自宅もしくは避難先で安心・安全に過ごすことができる

目標：当事者及び支援者が、災害に備えて必要物品の準備、非常用電源への切り替え等が実施でき、支援者の連絡体制について確認することができる。

避難訓練（当日）

医師

本人

家族

地域住民

理学療法士

医療機器メーカー

病院地域医療連携室

地域包括支援センター

訪問看護師

行政

ケアマネジャー



計 22名

避難訓練（当日）

集合



自己紹介



本日の目的・目標を共有



シナリオに沿って流れ確認



当事者の移乗・移送



必要物品の確認



振り返り



参加者のご意見

- ・ 今回の避難訓練を通して、実際に地域に人工呼吸器を装着している方がこのようにして生活していることを知っていただいたことが嬉しく思う。
地域や支援者へケアマネとして発信や交流していく立場であること再認識した。
- ・ 災害時は、自助・共助・公助といわれている。基本は、自助。そして、共助。ご近所さんとの底力で乗り越えてほしい。万が一、電源が確保できない状況になれば、**一人でアンビューバックを押し続けることは難しい。アンビューバックの使い方についても学んでいただけたらと思う。**
- ・ 患者さんが、**車いすに座ったところをはじめてみた。**人工呼吸器装着者の移乗を初めて見たので勉強になった。
- ・ **移乗・移送にここまで色々なプロセスがある**のかと、改めて感心した。災害に向けて、常日頃の備えが大切だと実感した。

参加者のご意見

- ・ **一人だと一つの行為が危険を伴うことある。** こういう場で、皆さんに実際に見て知っていただいで、これだけ大変だと知っていただいたことが良い機会だった。
- ・ 知ることから意識改革はじまると思ったらその通りだった。 **地域の支援者と、本人と、緊急連絡先に記載してある人（親族等）の顔合わせ会などをしておくの良いのかなと本日つくづく思った。**
- ・ 自分に何ができるかと思っていたが、何もできないと思う。できない中で、 **自治会議の定例会でどのようなことをしていったらよいか話し合いしていきたいと思う。**
- ・ 隣近所にどのような方がおられるかわからない方も増えていると思う。 **地域のコミュニケーションを大切にしなければいけないと思った。**
- ・ **地域での支えは、本当に大事** と思った。
- ・ 災害は、何が起こるか予測できないことが不安。
今回集まって状況を共有できたことは有効 であった。

奥さまからの感想



主人をみていただき、どのように生活しているかを見ていただくことができて良かった。

災害時は、家族で力を合わせて、地域の人に助けていただきながら、これからあと何年か過ごしていけたらと思っている。

今日は、**地域の人や区の区役所の方にも知っていただくことができて良い機会だった。**

訓練を実施してみて分かったこと

- ・避難訓練当日は、想像以上に多くの方にご参加いただき、支援者それぞれが災害時の対応について、関心の高さがうかがえた。
- ・地域の支援者も、災害に備えて顔の見える連携をしたいと思っていることが分かった。
- ・一人の在宅療養中の患者さんにとっても多くの方が関わっているが、災害時の連絡網について共有がされていないことが分かった。
- ・災害時の支援者の役割について、明確化されていないことが分かった。
- ・コロナ前には訪問して個別避難支援プランを作成していたが、コロナ禍になり電話での聞き取りにて個別避難支援プランを作成しているため、地域資源の状況の把握が難しかった。今回、避難訓練実施にあたり、地域や訪問看護ステーションとの連携を密にすることで、地域資源（地域の役員のみでなく、近所の会社等）の発掘につながることも分かった。

考察

- ・人工呼吸器装着者の在宅での療養の様子や、移乗・移送プロセス、必要物品の確認、当事者家族の話やそれぞれ支援者の話を実際に聞き、様子を見ることで、それぞれの支援者で何ができるか検討するきっかけになったと考えられる。
- ・普段関わっている支援者にとっても、移乗・移送に関わる支援者は限られているため、今回災害時の流れや移乗・移送プロセスについて再確認する良いきっかけになったと考えられる。
- ・必要物品に関して、ご家族よりどのようなものが必要なのか説明をいただけたことは有効であったが、有事の際にご家族以外の方でも避難物品の準備ができるよう、どこに何が置いてあるのか支援者で共有できると災害時のご家族の負担少なくなると考えられる。

今後の課題

- ・個別避難支援プランの性質上（手上げ登録）、在宅人工呼吸器装着者の把握が確実でない。また、地域の方へ知られたくないとの理由等でこの制度に登録していない在宅人工呼吸器装着者もおられる。行政として、把握・登録をすすめていくためには、どのようにしたら良いか検討が必要である。
- ・個別避難支援プランを作成しているが、災害時の連絡網作成までいたっていない。各支援者の連絡網について、支援者と調整し支援者間で共有できるような仕組み作りや、発災時の行政と支援者間との連絡体制について共有が必要である。
- ・移送支援者が家族や親族のみの方が多数である。地域支援者や地域の社会資源の発掘をしていくことが必要である。
- ・電源確保の避難先が1カ所しかない方がほとんどである。電源確保の避難先についても、今後拡充していくことが必要である。（補助電源の確保支援も今後の検討課題である。）

まとめ

- ・災害時に個別避難支援プランが有効に活用できるようにするためには、支援者と顔を見える関係をつなぎ、連絡体制を整え共有することが重要である。
- ・医療関係者と地域の支援者と行政等が、一同に会し、それぞれの意見を聞くことができる機会はとても貴重な場であり、今回の避難訓練を通して医療関係者が地域の支援者を知ることができたのはとても有効であった。
- ・今回の避難訓練の学びを、行政間や支援者で共有し、今後もこの取組みを実施していくことで、当事者や支援者、地域住民が災害時の体制や平常時にできることについて考えるきっかけになると考える。そのため、今後もこの取組みを継続していくことが重要である。